

文化財の資料学的研究 (①企02-14-4/5)

目 的

日本を含む東アジア地域における美術の価値形成の多様性を解明するために、近年の記録媒体や分析手法等の進展に対応しながら調査研究を行い、文化財を対象とする資料学的基盤を整備、確立する。併せて、その基盤を礎としながら国内外の研究交流を推進し、成果を広く一般に公開する。

成 果

1. 東京文化財研究所が所蔵する明治期の書簡・手記を中心とする近代文書の判読と翻刻作業、および、美術史研究のためのコンテンツづくりとして、平安時代在銘彫刻作品の銘文データの入力と編年目録(年表)の作成を行った。
2. 1.の東京文化財研究所が所蔵する明治期の書簡・手記を中心とする近代文書の判読と翻刻作業の成果の一端を企画情報部研究会(2014(平成26)年8月6日)で口頭発表を行った。
3. 2.の成果(企画情報部研究会での口頭発表)の内容を『美術研究』414号、同415号に掲載した。また、東京文化財研究所が所蔵する今泉雄作の『記事珠』ウェブサイト上での公開に向けてのパイロット版を作成し、第48回オープンレクチャー「モノ／イメージとの対話」(2014(平成26)年10月31日)で講演を行った。

論文

- ・綿田稔・江村知子・土屋貴裕「研究資料 続稀蹟雑纂一ポートランド美術館所蔵作品簡解(一)一」『美術研究』414号 東京文化財研究所 pp.27-34、15.2
- ・江村知子「研究資料 続稀蹟雑纂一ポートランド美術館所蔵作品簡解(二)一」『美術研究』415号 東京文化財研究所 pp.67-72 15.3
- ・吉田千鶴子「研究資料 黒田清輝宛外国人留学生書簡 影印・翻刻・解題」『美術研究』414号 東京文化財研究所 pp.58-73 15.2
- ・児島薫「藤島武二による黒田清輝、久米桂一郎宛書簡について(1)」『美術研究』415号 東京文化財研究所 pp.73-76、15.3
- ・児島薫「黒田清輝、久米桂一郎宛 藤島武二書簡(1)」『美術研究』415号 東京文化財研究所 pp.73-76 15.3

発表

- ・吉田千鶴子「黒田清輝宛外国人留学生書簡 影印・翻刻・解題」企画情報部研究会 東京文化財研究所 14.8.6
- ・児島薫「藤島武二から黒田清輝、久米桂一郎宛書簡について」企画情報部研究会 東京文化財研究所 14.8.6
- ・津田徹英「一流相承系図(絵系図)の構想と機能」第48回オープンレクチャー「モノ／イメージとの対話」東京文化財研究所 14.10.31

研究組織

○津田徹英、田中淳、山梨絵美子、二神葉子、小林公治、塩谷純、小林達朗、皿井舞、安永拓世、河合大介、橘川英規、福永八朗(以上、企画情報部)、江村知子(文化遺産国際協力センター)、中野照男、三上豊、近松鴻二、吉田千鶴子(以上、客員研究員)